

第6章 保健管理センター



保健管理センターは、平成5年10月、学生会館2階に保健室が設置され、杉本 潤先生（生駒市真弓で内科医院開業）が校医として月2回（1時間／1回）勤務したことに始まる。同年、学生の入学が始まり、10月に学生・教職員の健康診断（(財)奈良県健康づくり財団に委託）が開始された。また、平成6年7月、西山絹代看護婦（元石切生喜病院に勤務）が技術補佐員として学生課に勤務するようになった。平成7年4月、保健管理センターが開設され、上田尚彦医師（大阪大学医学部第一内科〔腎臓研究室〕講師）が教授・所長として着任、西山看護婦も技官として採用された。そして、同年6月に保健管理センター運営委員会（2回／年）が組織され、全学的な意見が集約され、活動を始めることになった。

保健管理センターはHealth Care Center(HCC)と英訳され、まさしくその役割は、学生・教職員の心身の健康を保持するため、check機能として健康診断を、cure機能として日常診療を行ない、care機能として生活指導・健康教育を充実させ、これを相乗させ健康増進health promotionを目指すことを理念に、関係各位の協力を得て、諸設備の整備、種々活動の展開が行なわれた。

まず、保健管理センター内は診察室・学生懇話室・フィットネス室・休養室・所長室・資料室に機能的に配置された。診察室には、自動身長体重計、自動血圧計、自動視力計、電動診察台、心電計、自動尿分析器、全自動血球計数器、携帯型簡易生化学分析システム、臨床化学自動分析装置、簡易便潜血反応試薬、眼底カメラ、聴力測定器、肺活量計、24時間血圧モニターシステム、24時間心電図モニターシステム、簡易自動血圧計、などの測定機器が完備され、87種類の内服薬、38種類の外用薬、25種類の注射薬、それにマイクロ波治療器、超音波ネブラオザーなどの治療用の薬物・機器が常置されるようになった。学生懇話室には、ラウンジテーブルと椅子、自動給茶器、テレビデオ、ミニコンポ、ボディソニックが設置され、学生の団欒、交流、リラクゼーションに活用されている。フィットネス室には、ハートウォーキング支援システム、エアロバイク、電動ランナー、ハイドラフィットネストレーニングマシン、ダンベルセット、ポウフレックス、サンパワーフレクサー、デジタル背筋力計、デジタル握力計、電動マッサージ機などの体力・健康増進の機器がまとめられている。なお、休養室にはベッド2台、トイレにはオオシュレットを整えている。また、メンタルヘルスの重要性に鑑み、平成8年4月からカウンセラー（非常勤講師）として東山弘子先生（元奈良大学教養部教授、現仏教大学教育学部臨床心理学科教授）を招聘、月2回のカウンセリングが行なわれている。なお、スポーツに対する学生・教職員の意欲、希望が強く、これでもって個々の健康増進に寄与し、団体活動による人的交流、人間関係の育成に貢献すると考え、体育館等体育施設の完備を提案し

ていた結果、平成14年2月にバレーボール、バスケットボールが可能な屋外コートが新設された。

一般の定期健康診断は、平成8年から4月に実施することにし（ニチャク医学検査研究所に委託）、同時に特別（RI、エックス線、組換えDNA）定期健康診断を開始した。健康教育ならびに広報活動として、「HCC News（保健管理センターだより）」を平成7年から年2回発行、学内広報誌「せんたん」や「NAIST NEWS」に年3~4回寄稿、また時宜に適した「O-157感染症」、「VDT症候群」、「メンタルヘルス」、「熱傷・化学傷・凍傷」、「放射線障害」などの冊子を12編発行し、研究科からの要請を受けメンタルヘルスの講義なども行なっている。

保健管理センターの利用状況（平成12年度）は、

- ① 診察、検査、相談、他医療機関紹介などの来室者数は一日平均14名（延べ来室者数は3,023名：学生1,881、教官540、事務官〔含非常勤〕525、その他77）。
- ② 診察目的の来診者数は一日平均14名（延べ来診者数は3,003名：学生1,864、教官541、事務官〔含非常勤〕523、その他75）。
- ③ 諸検査実施件数は500件（学生272、教官112、事務官〔含非常勤〕109、その他7、主に血液検査347件、尿検査128件）。
- ④ 心理的相談件数は72件（学生59〔男性26、女性33〕、その他13〔男性12、女性1〕）。
- ⑤ 治療、精密検査のため他医療機関への紹介件数は109件（学生65名、教官13名、事務官〔含非常勤〕18名、その他13、入院・自宅療養を要した者19名〔学生10名、教官3名、事務官5名、その他1〕）。
- ⑥ 疾患別には、かぜ症候群が最も多く、次いで不眠、そして胃炎・腸炎などの消化器疾患、それに頭痛が多く、創傷・擦過傷・熱傷などの外科的疾患、捻挫・打撲・筋肉関節痛・腰痛などの整形外科的疾患、の順である。
- ⑦ フィットネス室・懇話室の利用状況（フィットネス室：1日平均15名〔学生10：教職員5〕、懇話室：1日平均5名〔学生が主〕）、である。

上田尚彦所長は、全国大学保健管理協会評議員また日本腎臓学会評議員・幹事、日本内科学会近畿地方会評議員、日本循環器学会近畿地方会評議員、日本臓器移植ネットワーク近畿ブロックセンター事務局長として活動、西山絹代看護婦は、保健管理センターにおける日常の診療や心理的相談の中心的な役割を果たすとともに、第9回保健婦・看護婦班阪奈和地区研修会（平成13年11月16日）の世話人を務めた。

これからも、学生・教職員が個々の特性を十分に発揮出来るよう、健康保持・増進を支える保健管理センターの役割は大きい。

（文責 上田尚彦）

